思いを新たに

芦高新聞
発行所
県立芦屋高等学校
出版部
兵庫県芦屋市宮川町6の3

本校指定店
合資会社 芦屋写真室
撮影部
カメラ部
国鉄芦屋駅北出口前
電話芦屋㉒四七三六番

日記抄
――新しい学校とのふれあい――
校長　市橋　勉

四月八日。始業式・入学式。第一任のあと西二千年史・二千五年史・三千年史通読。式の時の話で、同和対策審議会答申前文「同和問題は人類普遍の問題である」の問題と自由と平等に関する問題であり、日本国憲法によって保障された基本的人権にかかる問題である。等、それらの諸の精神にふれると共に、差別をなくしようとする意欲と能力を持った人間を育成する芦高教育をめざしつつ、伝統の校風"自律・自治・自由"について真の精神を究めたい。と、私にとっても之からの道は如何にあるべきかと深く思わせられる。

五月十五日。神輿復活の日、学校集会での話。「秘宝の不滅と苦悩の状況のなか、復活祭の存在を喜ぶべきながらなお復帰のワクからはみ出ないのは何か。いろいろの問題があろうが、日本国憲法の下に復帰することに住民の求めて止まなかった人間回復の第一歩を踏みしたいからである。盟友主席の感銘深い言の葉業で結ぶ。「自動車が暗いサニの中、眠りながら走るためには昼の前途を自分のヘッドライトで照らす。沖縄問題は、今ひのキャヤがかかっている。キャを貫く一条の光。この一条の光こそまさに教育である。」

八月八日。二年部外活動、後半を信じている。しかし、いのちを感ずることがなくなるだけでなく、激論をたたかわした当時の生徒は、もはや二年を経過した。自由闊達に論じ合った当時の生徒は、もはや二年を経過した。自由闊達に論じ合った当時の生徒は、もはや二年を経過した。自由闊達に論じ合った当時の生徒は、

今回は、学年のしめくくりとして、先生方の意見を主に取り上げてみました。

なお、紙面の都合により一部の先生方の感銘しか載せられませんでした。その点は悪しからず。

女子駅伝開催の光栄に浴する。快晴、女神芦屋第七回三十三分。アルプス連峰の遠景を満喫しつつ四十時二十分。

（昨夜の豪雪）今、ここ都会雪国における芦高第一学年のキャンプファイヤーの火が点じられ、根張りとなってそれは天を突く大焔と昇ることを祈りたい。

『この一年をふりかえって』
生徒課　朝倉義雄

近年芦高生の自治意識の低下がしばしば問題にされている。その一つのあらわれが自治会総会の立候補者が少なく選挙が無投票になったり、信任投票が常態化していたり、信任投票が否認されたりすることである。（選挙からの立候補者がいても無効投票、スト激突などが計画に支障を来たすおそれもある。）新執行部が発足しない試練が例年繰り返されてきた。この一年、学校集会での留保してもらいたい。突然、今日年後試合に立候補者が出ないことで臨時の選挙をしなければならなくなったり、行事の縮小をしなければならなくなったりすることで、行事の縮小をしなければならなくなったりすることで、行事の縮小をしなければならなくなったりすることで

雑感

雑感

松本 善男

昨年一年間を振り返って何か新しいことがあったのだろうか。私の少年期から今日までの間と比べてみて、私の周辺に来た変化は何だったのだろうか。

自分がいま二歳帰りしていることが、何だか無意味なことのように思われて、何とも表現出来ない虚しい気持になることも、誰もが経験した事ではないでしょうか。人間はこの長い長い歴史の中で、あらゆる生活方法をもうすでに経験し尽してしまったのではないでしょうか。それなら本当に新しい生活方法があるのでしょうか。そして、私たちの子供たちの代にまでも知っているのだろうか。

またエンジン時代到来の言葉と共に、過去自動は急かの、潤滑日かの声まで聞かれる時代になっても、氷山の全ての大きさを見通す能力をこれからも、又、その重量と大かさ本当に人間の生活方法を求めているといわれています。それ故、人間はどんな山の大きさも踏破されるのであろうと思うものはそれぞれに塾へ行く傾向がでている。

○ここまでたるかるがそこおく、日本は戦後アメリカから教育委員会なる制度を押しつけられた、万法論的に一国一城の主となった教育其の他、教育法は色々と考えられるが、とにかく結論は「学問は王道なし」ではなかろうか。

○ひむかしの山に登る。山頂からの眺めは美しい。登るための苦労なんて時とともに消える。また登る、また登る。また登る。また登る。また……。道はやがてしっかりしてくる。もう迷う恐れない。いつかあの山に登ってみようと思う。

○人間の持っている個人的な生命（精神的・身体的資質）を自由かつ全面的に発達させていくことを基本とする学校教育を施行していく。漢字の読みから、長さの単位、算数には方法上の原則はすべき。

○アンセル時代の教育委員会が現在している町がある。学問は学校・家庭・社会の協力なくしては決して効果がない。学校では生徒個一の能力を持っているものとして取扱わなければならない。たとえばある地方の学校で、ある子供が、勉強が出来ないとか、ものおぼえが悪いとかいうことは、ほとんど論理的記憶の分野ではなく機械的記憶によるものであるから、手を換えて心理的に取扱うことが必要である。

○ガンの考える人の彫刻をみよ、手を額にのせ思考する。推理もの部分（前頭葉）で行われ、前頭葉は記憶の場である。思考した、具体的な歴史の文献のなかから、学生運動の誕生とは何かを探ってみよう。

これは、五・四運動から六年後の1925年に、中国共産党の指導のもとに上海の日本人紡績工場で起こった労働争議に端を発し、全国的な反帝国主義運動に発展した。

この運動の中心となったのは、上海の学生たちであった。

○現代は多様化の時代であるからこそ、教育も多様化すべきであるという声が強い。学校が生徒の能力に応じた教育内容を用意するのは理想のためには強制なことであるが、生徒の選択を尊重するのは、それを実現するための施設の問題である。

○視聴覚教育の発達は、人間の記憶の仕方にも変革をもたらした。それを機械的記憶という。その機械的記憶をどう評価するかは、今後の問題である。

○人間の記憶には、理解を伴う論理的記憶と、理解を伴わない機械的記憶とがある。

○人間の記憶は、理解を伴う論理的記憶の方が、機械的記憶よりも、はるかに優れている